



お盆の準備をしましょう

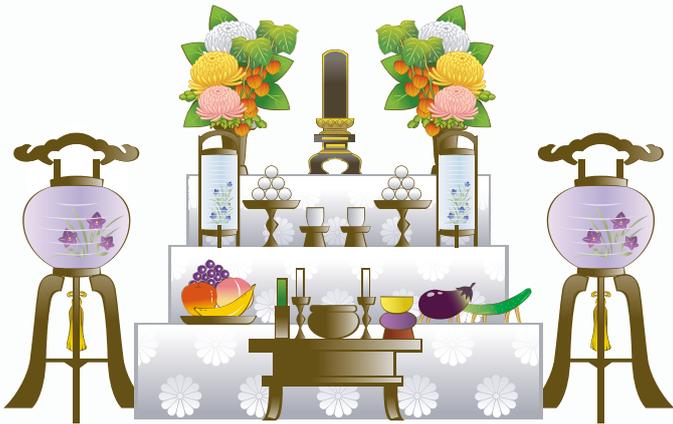


新盆とは前年のお盆以後に亡くなられた大切な方を迎えるお盆の事を言います。新盆の場合は特に手厚く供養します。地域やご寺院によって違いがありますので、ここでは基本的な迎え方をお伝えします。代表的なものとして白張提灯（白い提灯）に法名（戒名）を書き、盆棚の前や軒下に吊り下げ、棚経というお経を御住職にあげていただきます。

盆の入り 8月13日

ご先祖様があの世から戻って来て、家族や親戚と一緒に過ごすお盆。宮城県では8月13日～16日、関東の一部では7月13日～16日とされています。四十九日前にお盆を迎える場合、その年には新盆の行事は行わず、翌年のお盆に新盆（初盆）として迎えます。詳しくはご寺院様にご確認下さい。お盆には、ご先祖様のためにお墓の掃除や寺院での合同盆供養など様々な事柄があります。ご先祖様をお迎えして気持ちよく過ごしていただけるよう、余裕をもって準備をしましょう。13日の晩にはご先祖様が帰って来るための道しるべとなる迎え火でお迎えしましょう。

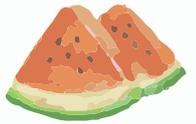
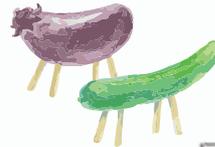
◎浄土真宗の場合、盂蘭盆会はしませんが、阿弥陀如来様に感謝し命の大切さを再認識する歓喜会の法要などがあります。



盆の明け 8月16日

ご先祖様が迷わずあの世に帰れるよう、送り火を焚いてお送りします。楽しいひと時をご家族やご親戚の皆さんと過ごしたご先祖様へ、心を込めてお見送りしてください。お盆期間中に祀っていた盆棚や絵柄入り提灯、行灯などは毎年使うものになりますので、汚れを落としてから防虫剤を入れるなどして、送り火を焚いた後または翌日に片付けましょう。

◎精霊馬などは送り火と一緒に燃やす慣習もありますが、近年は塩で清めてから処分することもあります。自治体によって異なりますのでマナーを守って処分してください。



お盆必需品

盆入りに必要なものは、盆棚（精霊棚）、提灯や行灯（新盆の方は白張提灯）迎え火、送り火です。お線香やローソクも欠かさないようにしましょう。盆棚には真菰（まこも）で編んだ敷物、精霊馬、笹竹、真菰縄とホオズキ、蓮の葉などの盆花、お供え物を揃えて12日または13日の午前中には並べ終えられるよう準備しましょう。

◎マンションなど迎え火、送り火が焚けない場合は提灯や行灯の光でご先祖様の道しるべを作ってあげましょう。

新盆用白張提灯



和型提灯



モダン提灯



心待ちセット



お盆にお祀りする必需品をセットで販売しています。

迎え火送り火セット



13日の迎え火や16日の送り火に使用するたいまつとほうろく皿のセットです。

精霊馬



13日の盆の入りには馬に乗って来て、16日の盆の明けには牛に乗って帰ると言われています。

初めてお盆を迎える故人様は白い提灯を飾ります。翌年からは故人様が迷わないように、絵柄入り提灯を飾って明るくお迎えします。

